第2回学校保健委員会　報告

２月１２日（水）に第２回学校保健委員会を開催いたしました。学校医や学園の職員の方、保護者の代表の方、本校職員が集まり、健康相談や学校環境衛生検査の結果についての報告、協議を行いました。

協議　「本校児童生徒の歯科検診の課題について～歯科検診結果と教職員アンケートから～」

歯科検診の結果を踏まえ、教職員に歯磨き指導に関するアンケートを実施しました。歯科医の田原先生には教職員からの質問にお答えいただいたり、皆様からもたくさんの御意見や御助言をいただいたりすることができましたので、ご紹介いたします。

学校より

○歯科検診の結果より、本校では学部が上がるにつれて、歯肉の異常や歯垢の付着がみられるなど口内環境が悪化している傾向がある。

○教職員アンケートを実施

- **ほとんどの学級で教師が仕上げ磨きを行っている。**
- **歯磨き指導で困っていることは？→うがい、歯ブラシを噛む、自分で丁寧に磨くことが難しい、口を開けずブラシが入りにくいなど**

学校歯科医より

○むし歯や歯周病の予防について…原因はプラークである。プラークは歯周病菌やむし歯菌が歯に付着しているものなので、ブラッシングで取り除く必要がある。野菜などをしっかり噛むことで自浄作用が働きプラークが取り除かれることもある。

○歯ブラシを噛んでしまうことについて…小さい頃からの習慣もある。噛まないように声掛けをしたり、噛む面は後回しにして、側面からきれいにしたりしてあげるのも一つの手である。

○仕上げ磨きについて…学校では何人も子どもがいる中で一人の子の歯磨きに十分に時間をかけるのは難しいので、よい口腔状態を保つためには家庭との連携が必要である。

○ブクブクうがいについて…小さい頃から訓練してやっとできるようになる場合もある。難しい場合も多く見られる。

保護者より

○歯ブラシの硬さについて

→学校歯科医より

・硬さは普通でよい。歯茎が弱く、出血しやすい子どもはやわらかめがよい。歯茎が締まってきたら普通の硬さに戻す。

※一人ひとりプラークの状態や歯茎の状態が違うので、みんなに合う方法はない。一人ひとりの子どもに合わせて歯ブラシを選ぶことが大切である。